

**ユース・ウインド・オーケストラ
&
Oak Wind Symphony**

ジョイントコンサート

2013年1月6日（日）

14:30 開場 15:00 開演

鎌倉芸術館 大ホール

【後援】

神奈川県教育委員会

柏陽高校吹奏楽部 OB 会「つばさの会」

ユース・ウィンド・オーケストラ 団長 秋山 晃一

新年あけましておめでとうございます。本日はご多忙の中、Oak Wind Symphony と私達ユース・ウィンド・オーケストラ共催のジョイントコンサートにおいて頂き誠にありがとうございます。

今回のコンサートは、Oak Wind Symphony をご指導されている榮村先生と私達のご指導をなさっている山岸先生、高田先生がプロフェッショナル吹奏楽団であるシエナ・ウィンド・オーケストラで共にご活躍している事がきっかけとなり、約一年半の準備を経て開催の運びとなりました。プログラムは両団体の単独演奏と合同演奏、榮村先生、高田先生の協奏曲など盛り沢山な内容となっておりますので、是非最後までお楽しみ下さい。

本日のジョイントコンサートを開催するに当たり、ご指導頂いた先生方、Oak Wind Symphony 御一同様を始めとする関係する皆様方に心から感謝します。今後もユース・ウィンド・オーケストラという名の様に、結成当時の音楽に対する若い情熱を忘れることなく、音楽性の向上に団員一同楽しみながら努力したいと思います。40周年、50周年を迎えるためにも、引き続き皆様方のご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

Oak Wind Symphony 団長 竹内 連

本日はお忙しい中、Oak Wind Symphony とユース・ウィンド・オーケストラのジョイントコンサートにお越しいただき、誠にありがとうございます。

私ども Oak Wind Symphony は、前身である柏陽高校吹奏楽部 OB バンドでの約 18 年の活動後、2000 年に一般バンドとして誕生し、早いもので 12 年が経ちました。創団当初は未熟者でありました私どもですが、多くの方々の支えの中で、ようやく安定した活動を行うことができるようになりました。近年では、創団 10 周年の 20 回記念演奏会を開催したり、吹奏楽コンクールにおいて神奈川県代表として東関東大会に連続出場を果たすなど、活動のレベル・幅ともに充実したものになってまいりました。

そんな中で、ご縁あって今回のユース・ウィンド・オーケストラとのジョイントコンサートのお話が上がりしました。私どもからすれば団の歴史もかなり長い「大先輩」ともいえる楽団の皆様との合同演奏ということで、今日の日を Oak Wind Symphony 団員一同、心より楽しみにしてまいりました。私どもの未熟さばかりが目立つ演奏会となるかもしれません、胸を借りるつもりで精一杯演奏したいと思います。

最後になりましたが、日頃より熱心にご指導いただいている榮村先生や、今回ご一緒させていただく高田先生、山岸先生、ユース・ウィンド・オーケストラの皆様、そして本日の演奏を迎えるにあたりご協力いただきました関係する多くの皆様に厚く御礼を申し上げたいと存じます。

それではごゆっくりとお楽しみください。

1**Oak Wind Symphony ステージ****指揮：榮村 正吾****オリエント急行**

Orient Express

作曲／ P. スパーク

Philip Sparke (1951-)

マリンバと吹奏楽のための**コンチェルティーノ**

Concertino for Marimba and Winds

作曲／ A. リード

Alfred Reed (1921-2005)

【 マリンバ独奏 高田 亮 】

ミス・サイゴン

Miss Saigon

作曲／ C. M. シェーンベルク

Claude-Michel Schönberg (1944-)

編曲／ 宍倉 晃

2**ユース・ウィンド・オーケストラ ステージ****指揮：山岸 明彦****サクソフォーン協奏曲**

Concerto for Saxophone

作曲／ A. グラズノフ

Alexander Glazunov (1865-1936)

【 アルトサクソフォーン独奏 榮村 正吾 】

編曲／ 秋山 晃一

第六の幸福をもたらす宿

The Inn of the Sixth Happiness

作曲／ M. アーノルド

Malcolm Arnold (1921-2006)

編曲／ 瀬尾 宗利

3**合同ステージ****指揮：高田 亮****スクーティン・オン・ハードロック**

Scootin' on Hardrock (Three Short Scat-Jazzy Dances)

作曲／ D. R. ホルジンガー

David R. Holsinger (1945-)

世俗カンタータ**「カルミナ・ブラーナ」 より抜粋**

Carmina Burana

作曲／ C. オルフ

Carl Orff (1895-1982)

編曲／ J. クランス

CONDUCTOR

～ 指揮者の紹介 ～



榮村 正吾
さかえむら しょうご



高田亮
たかだ りょう



山岸明彦
やまぎし あきひこ

榮村 正吾 第1部 指揮者 (Oak Wind Symphony)

1991年東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。

在学中に安宅賞受賞、東京文化会館新人音楽会に出演。シエナ・ウインド・オーケストラのサクソフォーン奏者として1年間活躍。卒業後アサヒビール芸術文化財団の助成金を受け渡仏。フランス国立セルジー・ポントワース音楽院高等科に入学。1992年、パリ国際コンクール第2位受賞。同年同音楽院を首席で卒業、1993年、レオポルド・ベラン・コンクールにおいて第1位および大賞受賞。同年同音楽院演奏科を修了。

フランスをはじめ、ベルギー、イタリア、デンマーク等ヨーロッパ各国において演奏会、音楽祭に出演、好評を博す。帰国後東京文化会館において第1回リサイタルを開催。NHK-FM 土曜リサイタルに出演。第10回ワールドサクソフォンコングレス(イタリア)、同第11回(スペイン)にそれぞれ参加。

サクソフォーンを佐藤典夫、大室勇一、富岡和男、須川展也、ジャンニイブ・フルモーの各氏に師事。

現在、シエナ・ウインド・オーケストラ サクソフォーン奏者、国立音楽院講師、昭和音楽大学講師など幅広く、精力的に活動している。

山岸 明彦 第2部 指揮者（ユース・ウィンド・オーケストラ）

洗足学園大学卒業。東京コンセルヴァトワール尚美ディプロマコース修了。

チューバを日下文夫、多戸幾久三、安元弘行の各氏に師事。

1994、1997年北部ドイツ音楽祭に招待され、各地で演奏し好評を博す。1994年にモスクワ・シスター・オペラによるシュニトケのオペラ「狂気との生活」日本初演、1998年にワーグナーのオペラ「リエンチ」日本初演、2001年バーンスタインのブロードウェイミュージカル「キャンディード」日本初演等、オーケストラの演奏に多数参加。

その他レコーディング、アンサンブル、楽器クリニック、吹奏楽コンクール審査員、吹奏楽やオーケストラの指導等、後進の指導においても全国各地で活躍中。現在、シエナ・ウィンド・オーケストラ団員、山野楽器ウィンドクルー管楽器教室、下倉楽器音楽教室「クレアール」講師。

高田 亮 第3部 指揮者（ユース・ウィンド・オーケストラ）

1988年橘高校卒業。洗足学園大学を首席で卒業し、大学優秀賞を受賞。同大学音楽専攻科修了。

1993年デビュー・リサイタルを開催以来、全国ソロ・ツアーや、以後、ステージと衣装に力を入れた“ビジュアル系マリンピスト”として好評を得ている。NHK名曲リサイタル等に出演した他、数々のバンドとマリンバ、打楽器協奏曲を共演している。

2001年にはデビュー・アルバム“Rush out”をリリースし、オリコン・ヒットチャートベスト10を記録した。また坂本龍一氏の“1”、“Life”的ツアーや、地雷ゼロと題した“N・M・L”に参加している。全日本演奏家協会主催の第2回ソリスト・コンクール第3位入賞。

アンサンブルグループ“ラフェスタ”、“Ryo's Factory”を主宰している他、東京佼成ウィンドオーケストラやシエナ・ウィンド・オーケストラ等の演奏、コンクールの審査員や吹奏楽団の指揮・指導等幅広い活動を行っている。

2005年5月号より1年間に渡り、音楽之友社『バンドジャーナル』ワンポイントレッスンを執筆。2010年9月、セカンドアルバム“colorful”をリリース。今年9月11日に22回目のリサイタルを横浜みなとみらいホールにて開催。現在、洗足学園音楽大学音楽学部講師。神奈川県立弥栄高等学校芸術コース講師。M8スーパー吹奏楽団団員。

第1部 ~ Oak Wind Symphony ~

♪ オリエント急行

ヨーロッパの国際豪華列車「オリエント急行」が、ロンドンのヴィクトリア駅を出発し、終点のヴェネチア駅に到着するまでを描いたこの曲。BCC（英国国営放送）の委嘱作品として1986年にプラスバンド編成のために作曲され、後に吹奏楽編成用にアレンジされました。

曲の冒頭、人々が行き交う賑やかな駅の構内。車掌の吹くホイッスルを合図に、蒸気機関車の汽笛、加速していく車輪の音……さあ、楽しい長距離列車の旅が始まります。

続いて、田園風景の中を颯爽と走る様子。軽やかな木管楽器の旋律に、いろいろな楽器が次々と加わります。

中間部、山に差し掛かったのでしょうか？ 軽快だった車輪の音がやや苦しげになってきました。山を力強く登る列車と、車輪の軋むような音が中低音の不協和音で表現されています。

山を越え、再び軽快に走り出す再現部。「もう少しで到着だ！」そんな乗客の思いを乗せて、いよいよクライマックスへ。減速する列車、汽笛、ホイッスルが鳴り、無事に終点に到着です。

曲全体を通して、管打楽器それぞれの楽器の特徴を生かした列車の描写は、鉄道好きの吹奏楽人には感動モノだそう。華やかで明るい曲調が印象的なこの曲ですが、しっとりとしたメロディーが流れるノスタルジックな場面も。長距離を走る列車の力強さとは対照的に、故郷を懐かしむ様子を繊細に描いたこのシーンも、この曲の聞かせどころのひとつです。

(OWS／Bass Clarinet／新野 瑠美)

♪ マリンバと吹奏楽のためのコンチェルティーノ

この曲は、NHK交響楽団で長く首席ティンパニー奏者を務めた百瀬和紀・同氏の愛弟子である河野玲子（マリンバ奏者）両名の委嘱により、1991年に作曲されました。演奏頻度が少なく、なかなか生で味わうことができない曲のひとつです。

全体は、性格が全く異なる3つの楽章で構成されており、それぞれの楽章でマリンバの様々な魅力を味わうことができます。

今回は“ビジュアル系マリンピスト”としても名高い、ユース・ウィンド・オーケストラ指揮者の高田亮先生のソロでお楽しみください。衣装にも注目です！

《 第1楽章 / ノクターン 》

夢見るようなマリンバのささやきに導かれ、どこまでも美しいメロディーが時に優しく、時に激しく歌われます。楽章のラストには長いマリンバのカデンツァがあります。

《 第2楽章 / スケルツェット 》

「スケルツェット」とは、“小さなスケルツォ”（イタリア語で滑稽・ユーモア・冗談）の意味。一貫したテンポにのって、マリンバが軽やかに、そしてかわいく動き回ります。

《 第3楽章 / トッカータ 》

最後はノリノリで！ということで、ブギウギのリズムにのせて、賑やかに進行します。途中サックスのジャズなメロディーも交えつつ、陽気なまま最後まで突き進み、全曲を閉じます。

(OWS／Percussion／志水 栄雄)

♪ ミス・サイゴン

「ミス・サイゴン」は1989年にロンドンのウェストエンドで初演された、ベトナム戦争をテーマとしたミュージカルです。

舞台はベトナム戦争末期のサイゴン（現在のベトナム/ホーチミン市）。売春バーで働くベトナム少女のキムと、アメリカ大使館で軍属運転手を務めるクリスの恋愛が描かれています。ヘリコプターの音が効果的に使われ、全曲を通して、東洋風のエキゾチックな要素が随所に現れます。旋律はどれもとても美しく、悲劇を感じさせる曲となっています。

ミュージカル全曲の中から「序曲～わが心の夢～サイゴン陥落～今がこのとき」の4曲を抜粋。吹奏楽コンクールの自由曲としても度々取り上げられるなど、人気の高い楽曲でもあります。

【序曲】非常にインパクトの強い曲で、サイゴンの情景の描写と、これから起こる悲劇を暗示。

【我が心の夢】ヒロインのキムと親友ジジが、自分の夢を次々と歌い上げます。
ピアノのもの悲しい伴奏が印象的。

【サイゴン陥落】サイゴンが陥落する中、恋人同士が愛を誓い合い、しかし離れ離れに。
ミュージカル全体の見せ場です。

【今がこのとき】ヒロインのキムが、クリスではない婚約者の男性と決別するシーン。
美しいメロディーとは裏腹に、怒りと悲しみが音楽の内面に潜んでいます。

(OWS／Oboe／松林 雄一)

第2部 ~ ユース・ウィンド・オーケストラ ~

♪ サクソフォーン協奏曲

ドイツ生まれのサクソフォーン奏者シーグルト・ラッシャーのために、アレクサンドル・グラズノフにより1934年に作曲された作品。当時サクソフォーン協奏曲は非常に珍しく、古典派・ロマン派のサクソフォーン協奏曲として現在でも人気の高い協奏曲です。

ラッシャーは多くの特殊技法を使用したこと、現代サックス奏法の始祖と言われています。特にラジオ（通常の運指で出せる最高音の「ファ♯」より高い音）という奏法長けた奏者でした。この曲でも登場するラジオは、聴きどころの1つとなっています。

単一楽章の（楽章間の切れ目なく演奏される）曲ですが、急－緩－急の大きく3つにわかれ構成になっており、古典的な形式の協奏曲です。

《 第1楽章 》

管のユニゾンが曲の冒頭から第1主題を演奏、それに続きサクソフォーンが主題を変形させつつ現れます。第2主題は音階的なパッセージの要素が次第に拡大し、急速に下降する音形で唐突に打ち切られ終わります。

《 第2楽章 》

第1主題から発展した主題から始まり、サクソフォーンのカデンツァに続きます。カデンツァの最後から第2主題の変形の断片が繰り返され最終章のフーガへと突入します。

《 第3楽章 》

第2楽章の最後に突入したサクソフォーンのフーガを管が引き継ぎ、第2主題も組み合わされ対位法のテクスチュアを織り成します。今までに現れた主題と回顧を繰り返すうちに、第1主題が優勢になり幕を閉じます。

今回はユース・ウィンド・オーケストラの秋山晃一が本日の演奏会のために編曲。アルトサクソフォーンソロはサクソフォーン奏者であり、Oak Wind Symphony 指揮者の榮村正吾先生をお迎えし演奏致します。原曲の伴奏は弦楽オーケストラですが、吹奏楽編曲版でのまた違った一面をどうぞお楽しみください！

(YWO/Horn/曾根 育美)

♪ 第六の幸運をもたらす宿

本楽曲は1958年に公開された「第六の幸福」という映画のために作曲され、1991年に管弦楽組曲として編集、1996年に吹奏楽編曲版が出版されました。吹奏楽曲の中では非常に人気が多く、演奏会やコンクールにてしばしば演奏されています。吹奏楽界では「六宿（ろくやど）」の愛称で親しまれています。

～ 映画「第六の幸福」とは～

第二次世界大戦、日本軍が中国を侵攻している激動の時代。その中、中国のヤンチェンという山中の小村に、クリスチャンの英国人女性グラディスが宣教師として赴任。彼女が多くの困難に立ち向かいながらも、献身的に苦しむ民に尽くした姿を描いた作品です。

「第六」の幸福とは、中国で概念とされている（長寿、富、健康、徳、悔い無き末期）に加え、“自分自身で見つける幸福”を指しています。

曲は3部構成となっており、壮大な場面やヤンチェンの温かさが表現された、美しいメロディーが奏でられる作品です。

《 第1楽章 / ロンドンプレリュード 》

主人公がロンドンから旅立つ時の、決意のテーマとされる音楽から始まります。鐘の音と蒸気機関車が表現され、映画の場面をそのまま切り取ったような場面描写が魅力的。決意のテーマと共に、愛のテーマも導入され、ふたつのテーマが全曲を通じて随所に登場します。

《 第2楽章 / ロマンチック・インタリュード 》

グラディスと中国の軍人であるリン・ナンが互いに惹かれあう様子を表しています。ロマンティックなメロディーによって2人の美しい愛を描いている楽章となります。

《 第3楽章 / ハッピーエンディング 》

2部構成の楽章。出だしは木管の連符から入り、とても華やかなメロディーが繰り広げられます。後半はピッコロ1本から始まる「The Old man」という、思わず口ずさみたくなるかわいらしいメロディーを皮切りに、だんだん音が重なり、美しく変化する部分が聴きどころです。最後は「ハッピーエンディング」の名にふさわしいフィナーレを迎えます。

(YWO/Flute/森まりも)

第3部 ~ 合同ステージ ~

♪ スクーティン・オン・ハードロック

この曲の作曲者 D.R.ホルジンガーは、アメリカ合衆国・ミズーリ州の出身で、かつては教会の居住音楽家(専属作曲家)として活躍していました。

ホルジンガー氏の楽曲は、どれも活発で独特の雰囲気があり、本国アメリカはもちろん、日本でも高い人気を誇る作曲家の一人です。ドラマティックな展開と鮮やかなビート感で、優れた吹奏楽曲を数多く手掛けています。近年では吹奏楽コンクールでも必ずと言っていいほど、ホルジンガー氏の名前を目にすることができます。

今回、合同ステージの一曲目として演奏する「スクーティン・オン・ハードロック」は、直訳すると「ハードロック通りを駆け抜けて」といった意味になります。

アメリカ合衆国・テネシー州。作曲者の住む「シャディ・グローブ通り」から、半マイル(約 800m)ほど離れたところにある「ハードロック通り」…かつては街の中心として賑わっていたこの通り。時代とともにすっかり寂れてしまい、近道程度にしか使われなくなってしまったのをしのび、作曲されました。

1999 年に作曲・出版されるやいなや、「ホルジンガーの異色作」として一躍注目を浴びたこの曲は、「3つの短いスキット・ジャズ風の舞曲」というサブタイトルがついています。力強い音楽ながら、ジャズ風な一面とメランコリックさをあわせ持った作品です。

1 楽章が始まった瞬間からエネルギーで、全ての楽器がひたすらに、まさに駆け抜けるかのごとく演奏します。大人な空気を醸し出している 2 楽章では、無機質に刻まれるリズムと、“濃い”メロディーが絶妙なバランスを作っています。そしてスピードが復活する 3 楽章。木管楽器の目まぐるしい動き、金管楽器の歯切れよさ、リズム隊が刻むビート。終わりに近づくほど加速し、キレよく“駆け抜けて”幕を閉じます。

使用する楽器も特徴的！ 吹奏楽オリジナル曲では滅多に登場しないエレキベースや、さまざまな効果音を生み出す珍しい打楽器などなど … 耳に入る音楽だけでなく、視覚的にも非常に楽しめる楽曲となっています。

♪ 世俗カンタータ「カルミナ・ブランナ」より抜粋

原曲はドイツの作曲家、カール・オルフ作曲した20世紀クラシック音楽の傑作、世俗カンタータ。『楽器の伴奏を持ち、舞台場面によって補われる独唱と合唱の為の世俗的歌曲』という副題がついています。1937年ドイツにて初演されました。混声合唱、少年合唱、ソプラノ・テノール・バリトンのソリスト、大規模なオーケストラという大きな編成です。酒や男女のむつみ合いなどを歌った詞に、シンプルな和音及び強烈なリズムが特徴。歌詞はオルフが偶然見つけた中世のラテン語(一部ドイツ語)詩歌集です。

本来オケ版は全25曲、それぞれが劇の一場面のような曲想を持っています。オルフは前述の詩歌集から24篇を選び(内1曲はオルフの自作)、曲をつけました。「初春に」「酒場で」「愛の誘い」の3部からなり、その前後に序曲・終曲がつきます。1936年に完成、翌1937年にフランクフルトのフランクフルト歌劇場で初演され、全世界に名前を知られるようになりました。

もともと「カルミナ・ブランナ」は遍歴流浪の学生や修道僧くずれが歌ったものだそう。歌詞は酒と女、愛の楽しさとはかなさをただ描いているだけ...であるにもかかわらず、この音楽はクラシックファンだけでなく多くの人々の耳に残る、強いパワーをもっています。リズム感と覚えやすくコミカルなメロディ、スピードの変化によるメリハリ、音響のおもしろさ・かっこよさ。聴けば聴くほど引き込まれる魅力があります。

全体は3部構成。

《第1部／『春に』》 春のうららかな陽気、愛を歌っています。

《第2部／『酒場にて』》 男性の欲望を表現。

《第3部／『求愛』》 男女の愛欲とエロスを描いています。

また最初と最後に、運命が支配する強さ、そので人間は^{もてあそ}弄^{なぐ}されているだけと表現されるモノローグ・エピローグがついています。

愛と欲望、そして運命をテーマに掲げたこの曲は、人間はただただ歯車の中で、ひたすらに翻弄^{ほんろう}され続ける様を表しているともいえます。

今回は壮大な25曲から、抜粋してお届けいたします。

Oak Wind Symphony

2000年8月7日。それまで県立柏陽高等学校のOBバンドとして活動していた当団ですが、「より感動する音楽を作るため、たくさんの仲間と楽しく活動しよう！」を合言葉に団員の意思がまとまり、一般市民吹奏楽団「Oak Wind Symphony」としてスタート。シエナ・ウィンド・オーケストラの榮村正吾先生にご指導頂き、精力的に活動しています。

年2回の定期演奏会(5~6月と12月)や吹奏楽コンクール(8~9月)を柱に活動をしています。吹奏楽コンクールにおいては2000年の結成以来、県大会金賞を11回受賞、2003年には悲願であった東関東大会への初出場を果たし、これまでに計7回神奈川県代表となりました。

近年では、地域のミニコンサートや慰問演奏会へ参加したり、毎年腕試しとしてアンサンブルコンテストに出場したり、有志でアンサンブルコンサートを開催したりなど、年々その活動の幅を広げています。

音楽から離れた部分でも公式・非公式を問わず、一年中団員同士のイベントや交流が盛んです。ときどき遊びすぎてしまう面がありつつも、「音楽が好き！」「吹奏楽が好き！」「Oakが好き！」、その気持ちを一丸として「感動できる音楽」を作り上げるという初心は忘れず、日々エンジョイしている、それがこの「Oak Wind Symphony」なのです。

Oak Wind Symphony では一緒に演奏を楽しむ仲間を随時募集しています！

若さあふれる大学生団員も、渋さがキラリと光るベテラン団員も、お互いに刺激をしあいつつ活動が繰り広げられています。(若さあふれるベテラン団員・渋さにじみ出る若手団員もいます…)

見学、入団希望の方は下記へご連絡下さい。

募集パート	：	ホームページを参照ください
練習日	：	原則毎週土曜日夕方（本番前は追加練習あり）
練習場所	：	横浜市南区を中心とした公共施設
連絡先（E-Mail）	：	kengaku@oakwindsymphony.sakura.ne.jp
OWSホームページ	：	http://www.oak-wind.sakura.ne.jp/oak/

Oak Wind Symphony 第25回 定期演奏会

日時 ： 2013年6月（日にち未定） 14:30 開場 ／ 15:00 開演

場所 ： 横浜市内公会堂

曲目 ： 復興 ／ 保科 洋

アルメニアン・ダンス（全曲） ／ A.リード ほか

* 詳細は決定次第、当団ホームページに掲載いたします

* 時間は変更になる可能性があります

ユース・ウィンド・オーケストラ

私達ユース・ウィンド・オーケストラは、1979年4月に神奈川県の県央地区の大学生を主体に30名程で結成したアマチュア吹奏楽団です。結成当時20歳前後のメンバーが主体で、まだ活動の拠点が定まっていたなかった事もあり、地名を入れず「ユース・ウィンド・オーケストラ」と名付けました（今思えば赤面の至りですが・・・）。数年後、活動拠点を大和市内に置いて以降、結成34年目の現在、年齢層も（相当）上がり社会人を中心に60人程で主に大和市内の練習場で活動しています。

指導者（指揮者）は、21年間ご指導頂いた鎌田由紀夫先生の急逝（2009.1.6）により、現在はシエナ・ウィンド・オーケストラの山岸明彦先生と、プロ打楽器奏者の高田亮先生に委嘱し、主に定期演奏会と吹奏楽コンクールのご指導をお願いしています。

春冬年2回の定期演奏会を主催する他、吹奏楽コンクール、音楽祭参加、依頼演奏、合宿、先生方との懇親会など、年間を通じ多彩な活動を行っています。主に5月に開催する春の定期演奏会は34回、主に1月に開催する冬の定期演奏会は今回も含め27回主催し、吹奏楽連盟主催の吹奏楽コンクールには結成以来毎年参加し、神奈川県代表として関東大会に13回、東関東大会に7回出場しています。

ユース・ウィンド・オーケストラは、大和市内を中心に、年二回のコンサート、合宿、コンクール、各種依頼演奏等の年間を通じ活動しています。高校卒業以上の楽器経験のある方、お待ちしております！

見学、入団希望の方は下記へご連絡下さい。

- | | | |
|-------------|---|---|
| 募集パート | ： | ホームページを参照ください |
| 練習日 | ： | 毎週土または日曜日（17:30～21:30） |
| 練習場所 | ： | 林間学習センター 他 |
| 連絡先（E-Mail） | ： | ywo@orange.zero.jp |
| YWOホームページ | ： | http://orange.zero.jp/ywo/ |

ユース・ウィンド・オーケストラ 第35回 定期演奏会

日時：2013年4月27日（土）13:30 開場（予定）／14:00 開演（予定）
場所：グリーンホール相模大野
(小田急線 相模大野駅北口より 徒歩約4分)

* 時間・曲目の詳細は決定次第、当団HPに掲載いたします

MEMBERS

～ 演奏者の紹介 ～

Oak Wind Symphony

Conductor 榮 村 正 吾

Flute & Piccolo

♪ 荒井みちえ
大熊真悠子
佐藤恵美
山田茜
吉野ひかり

Oboe

久保一麻
♪ 松林雄一

Bassoon

菊池愛
殿岡芽依

B♭ Clarinet

石井敬子
☆ 井上正人
岩下直紀
☆ 清水裕介
志水玲子
高島百合野
高橋聖子
竹内連
中川朋
額賀達也
♪ 広島愛子
山下祥代

Alto Clarinet

河村俊志
清水育子
新野瑠美

Alto Saxophone

☆ 小野剛司
木村真理江
関香子

Tenor Saxophone

♪ 坂元明日香
櫻井秋来

Baritone Saxophone

桂千愛

Trumpet

桂純弥
木村正宏
齋藤博樹
佐藤容子
露崎麻沙夫
藤田哲朗

Horn

三浦浩治
♪ 山邊愛

Trombone

片岡優
島田陽花
戸井真智
♪ 中野雄次

Bass Trombone

千田馨

Euphonium

青木真純
♪ 松谷俊介
五十嵐史生
伊藤優里

Tuba

真下勝実
増本景子
松浦清人

String Bass

池見浩
☆ 志水栄雄
関口綾子
高橋正樹
♪ 田中祐一
吉野みどり

Percussion

☆: 団内指揮者 ♪: パートリーダー

ユース・ウィンド・オーケストラ

Conductor 山岸明彦、高田 亮

Piccolo & Flute

長尾 幸子

Flute

♪ 内山 三衣子

小坪 尚美

酒井 優実

高橋 香奈

森 まりも

Oboe

下条 慈子

西井 智美

E♭ Clarinet

郡 麻衣

B♭ Clarinet

石井 純子

小野 寿子

♪ 河野 良子

倉持 智

島崎 瞳

藤田 恭子

松尾 美佳

松木 愛

山根 英朗

Alto Clarinet

秋山 晃一

Bass Clarinet

佐藤 直斗

Fagotto

大沼 秀則

松井 智香

Alto Saxophone

田中 優子

田村 雅三

☆ 丸山 正美

山田 純也

Tenor Saxophone

上原 明日香

高見澤 恵理子

Baritone Saxophone

♪ 池尾 隆暁

Horn

石川 晴香

曾根 育美

田中美帆

♪ 原田 麻衣子

藤田 祥平

Trumpet

後藤 祐美子

♪ 佐藤 孔洋

仲宗根 亜由美

矢野 友里恵

八巻 茉耶

山本 麻子

Trombone

♪ 遠藤 和美

長井 正子

西山 亮平

比留川 伸二

Bass Trombone

濱村 達司

Euphonium

青木 丈二

金指 郁美

西川 厚

原 孝司

Bass

阿部 晃久

♪ 安藤 昌訓

山家 拓也

String Bass

倉持 有

Percussion

池尾 奈々

江口 正樹

小黒 恭平

岸本 紗耶香

瀬川 輝

田代 正幸

♪ 松澤 涼子

